

## 高温による開花期変動が起こりにくい 8月咲きの小ギク新品種「春日の紅」

7～8月出荷の小ギク生産では、近年、春～夏の温暖化傾向による開花早期化が顕著にみられ、8月旧盆向けの作型では収穫ピークが高需要期に合致せず問題となっています。そこで、奈良県農業研究開発センターでは、高温の影響を受けにくく開花期の年次変動が小さい8月咲きの小ギク新品種「春日の紅」を育成しましたので、その概要について紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 「春日の紅」は、「ともこ」（子房親）と「白山手」（花粉親）の交配で得られた系統で、慣行の露地条件とそれより高温となる無加温ハウスで栽培し、両条件での開花日の差が5日以内となることを基準に選抜した品種です。
2. 「春日の紅」は赤紫色（RHS カラーチャート 64A）一重咲きで、花径 37mm 程度、舌状花数 20 枚程度、頭花数 28 程度で頂花の正常開花する頂点咲き花房型の小ギクです。葉の大きさは中程度で立性、茎の硬い切り花向き品種です（図1）。
3. 「春日の紅」は、奈良県橿原市での4月上～中旬定植の露地摘心栽培で、安定して8月5日前後に開花し、年次変動も小さい（図2）。
4. 月平均気温が露地よりも 1.4 ～ 1.7 °C 高い無加温ハウスの高温条件でも、花芽分化の開始時期および花芽の発達速度に差はみられず、平均開花日にも差がありません。
5. 対照品種の「広島紅」は 10 °C に比べて 15 °C 以上で花芽分化節位が低下し、発蕾日数が短くなります。これに対し「春日の紅」は、15 °C で花芽分化節位が 10 °C に比べて低下しませんが、20 °C 以上では花芽分化節位が低下し、摘心から発蕾までの日数が短くなります。



図1 「春日の紅」の切り花特性

切り花長 (cm)	83.4 ± 0.6
切り花重 (g)	57.6 ± 2.0
節数 (節)	42.3 ± 0.4
頭花数 (輪)	27.8 ± 1.1
舌状花表面の色	64A (RHS)

注) 2013年4月6日定植、4月18日摘心  
露地ベッド栽培

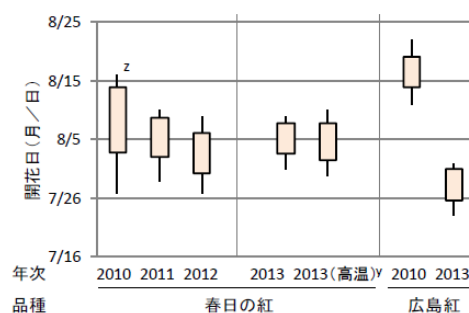


図2 「春日の紅」の開花日における年次間変動  
2) 図中の陽線および陰線は、平均開花日±標準偏差および開花始～開花終を示す。  
y) 2013年(高温)区以外は露地条件で、高温区は無加温ハウスでの栽培。

### ☆ 活用面での留意点

1. 「春日の紅」は、生育初期に低温が続くと開花期が遅くなる場合があります。
2. 生産者組織と奈良県との許諾契約により、奈良県外での営利栽培が可能になります。
3. 詳しいことは、奈良県農業研究開発センター ([TEL:0744-22-6201](tel:0744-22-6201)) へお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)